

令和5年度
全国学力・学習状況調査
恵庭市の調査結果（報告）



令和6年3月
恵庭市教育委員会

1	調査の概要	1
2	「教科に関する調査」調査結果	
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	
	① 小学校国語	5
	② 小学校算数	8
	③ 中学校国語	11
	④ 中学校数学	14
	⑤ 中学校英語	18
3	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	
	（1）小・中学校児童生徒質問紙調査結果の概要	22
	（2）学校質問紙調査の主な回答結果データ	30
4	総評	32

1 調査の概要

(1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
 - ・ 中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

(3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「全数調査」などともいわれ、集まったデータ全てををれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「標本調査」などといわれます。）

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（テスト）

令和5年度は、国語と算数（小学校6年生）又は数学（中学校3年生）に加え、英語（中学校3年生）のテストが行われました。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(5) 調査実施日

令和5年4月18日(火)

(6) 調査を受けた児童・生徒数

単位(人)	小学校6年生		中学校3年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
恵庭市	565	565	536	537	539
全道(公立)	35,645	35,657	34,256	34,259	34,242
全国(公立)	964,177	964,350	892,738	893,114	893,528

※当日の参加人数

(7) 調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的に実施していますが、本年度に調査した教科は2教科(小学校6年生)または3教科(中学校3年生)のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。したがって、**調査の結果から分かるのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部や、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと**に十分ご注意ください。

(8) 調査結果の掲載方法

「教科に関する調査(テスト)」の結果については、次のような方法で表示しています。

①教科ごとの平均正答率(%)

恵庭市の平均正答率は、全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較(ポイント差)	記号	文言
+5.0以上	△	上回る
+2.0~+4.9	◇	やや上回る
-1.9~+1.9	≒	ほぼ同程度
-4.9~-2.0	◆	やや下回る
-5.0以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の平均正答率の数値については、他市町村との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表していません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表していません。

②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている
60%～79%	○	↑ ↓
50%～59%	●	
49%以下	・	課題がある

「教科に関する調査（テスト）」の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）」の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。

（9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題とその正答例、解説資料及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・令和5年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
⇒ <https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

- ・調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記アドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・調査結果報告書（北海道）
⇒ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/168876.html>

※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも令和6年1月現在のものです。



2 「教科に関する調査」調査結果

(1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

令和5年度の恵庭市平均正答率について

- ・全国平均については、小学校6年生の算数と中学校3年生の数学でやや下回ったが、そのほかのポイント差は、ほぼ同程度となった。
- ・全道平均については、中学校3年生の国語でやや上回った。そのほかのポイント差は、ほぼ同程度となった。
- ・平成26年度以降、全国平均との差が±5ポイント以内と、大きな差が見られない状況が続いている。

* 令和5年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率

		平均正答率				
		小学校6年生		中学校3年生		
R5 (今回)	教科	国語	算数	国語	数学	英語
	恵庭市 (国と比較)	≒	◆	≒	◆	≒
	全国平均 (公立)	67.2%	62.5%	69.8%	51.0%	45.6%
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	◇	≒	≒
	全道平均 (公立)	65.8%	61.0%	69.4%	49.3%	43.9%
R4 (前回) ※参考	教科	国語	算数	国語	数学	英語
	恵庭市 (国と比較)	≒	◆	≒	◆	(実施なし)
	恵庭市 (道と比較)	≒	◆	≒	≒	

記号の意味 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



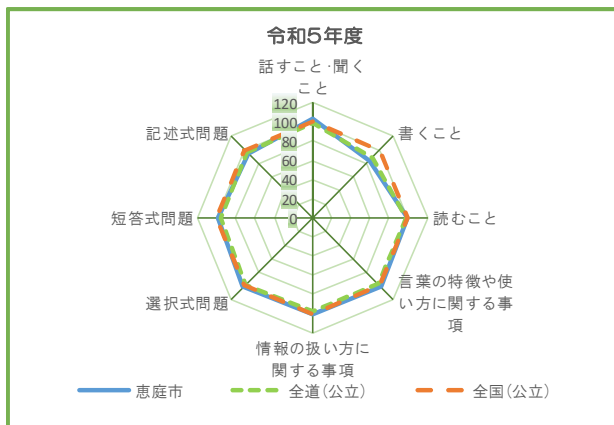
(2) 教科別調査結果の詳細

① 小学校 国語

解答時間45分・設問数14問

- 各領域等の平均正答率は、「話すこと聞くこと」は全国の平均正答率よりやや高く、「書くこと」についてはやや下回った。その他の領域についてはほぼ同程度であった。「話すこと聞くこと」「言葉の特徴や使いに関する事項」は全道の平均正答率よりやや高かった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より2.5ポイント低かった。
- 「記述式問題」は3問中2問全国平均を3ポイント以上下回り、無回答率も高いことから、文章を読み取り、自分の考えを記述することについては課題がある。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

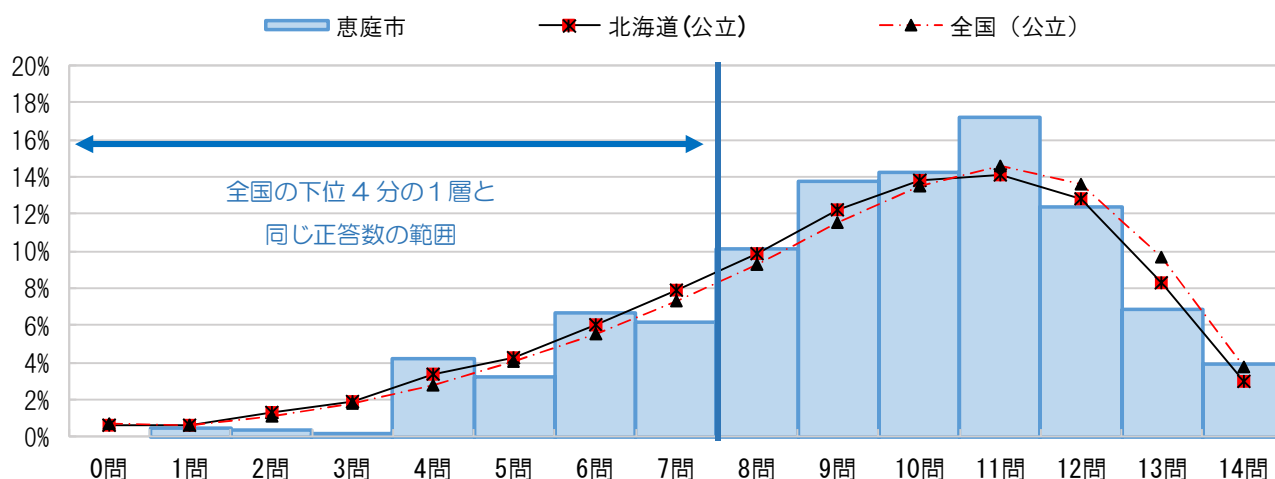


*小学校国語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率					問題形式別正答率		
		話すこと聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使いに関する事項	情報の扱いに関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R5	恵庭市	○	・	○	○	○	○	○	・
	国と比較	◇	◆	≒	≒	≒	≒	≒	◆
	全国(公立)	72.6%	26.7%	71.2%	71.2%	63.4%	73.6%	62.7%	51.1%
	道と比較	◇	≒	≒	◇	≒	◇	◇	≒
	全道(公立)	72.0%	23.5%	69.7%	69.7%	61.8%	72.5%	60.1%	49.2%
R4 (前回) ※参考	前回実施	話すこと聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使いに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	◆	◆	◆	≒	◆	≒	≒	◆
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	◆

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R5	恵庭市	21.4%	-2.5
	全国	23.9%	
	全道	26.0%	2.1

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	3問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	3 / 9問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	0 / 2問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	0 / 3問
		言葉の特徴や使い方	1 / 5問		
		情報の扱い方	0 / 2問		
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 9問
		書くこと	1 / 1問	短答式問題	0 / 2問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	2 / 3問
		言葉の特徴や使い方	0 / 5問		
		情報の扱い方	0 / 2問		
無解答率が10%以上の設問	2問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	0 / 9問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	0 / 2問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	2 / 3問
		言葉の特徴や使い方	0 / 5問		
		我が国の言語文化	0 / 2問		

* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
1四	【川村さんの文章】の 特徴の説明として適切 なものを選択する	文章の種類とその特 徴について理解して いる	言葉の特徴や使い方 に関する事項	選択	◎	79.8%	◇	79.7%	◇
					無解答率とその比較	0.4%	2.0%	-1.6	1.6%
2二	【相田さんのメモ】の 空欄に当てはまる内容 として適切なものを選 択する	目的に応じて、文章 と図表などを結び付 けるなどして必要な 情報を見付けること ができる	読むこと	選択	○	67.4%	◇	66.3%	◇
					無解答率とその比較	0.2%	1.4%	-1.2	1.3%
3一 (2)	【インタビューの様 子】の傍線部イ(～と いうのは、どのよう な姿ですか。)のよう に質問をした理由と して適切なものを選 択する	必要なことを質問し ながら聞き、話し手が 伝えたいことや自分が 聞きたいことの中心を 捉えることができる	話すこと・聞くこと	選択	○	74.0%	◇	73.2%	◇
					無解答率とその比較	0.5%	4.1%	-3.6	3.6%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1二	【川村さんの文章】の 空欄に学校の米作りの 問題点と解決方法を 書く	図表やグラフなどを 用いて、自分の考え が伝わるように書き 表し方を工夫するこ とができる	書くこと	記述	▪	26.7%	◆	23.5%	≡
					無解答率とその比較	7.6%	7.1%	0.5	7.7%
2四	資料を読み、運動と食 事の両方について分 かったことをもとに、 自分ができるようなこ とをまとめて書く	文章を読んで理解し たことに基づいて、 自分の考えをまとめ ることができる	読むこと	記述	●	56.2%	◆	53.9%	◆
					無解答率とその比較	12.0%	8.5%	3.5	9.0%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
3二	寺田さんと山本さん が、どのような思い でボランティアを続け ているのかについて、 分かったことをまと めて書く	目的や意図に応じ、 話の内容を捉え、話し 手の考えと比較しな がら、自分の考えを まとめることができ る	話すこと・聞くこと	記述	○	70.2%	≡	70.2%	≡
					無解答率とその比較	14.5%	14.3%	0.2	14.4%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%～79% ●50%～59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≡ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

【無解答率とは】

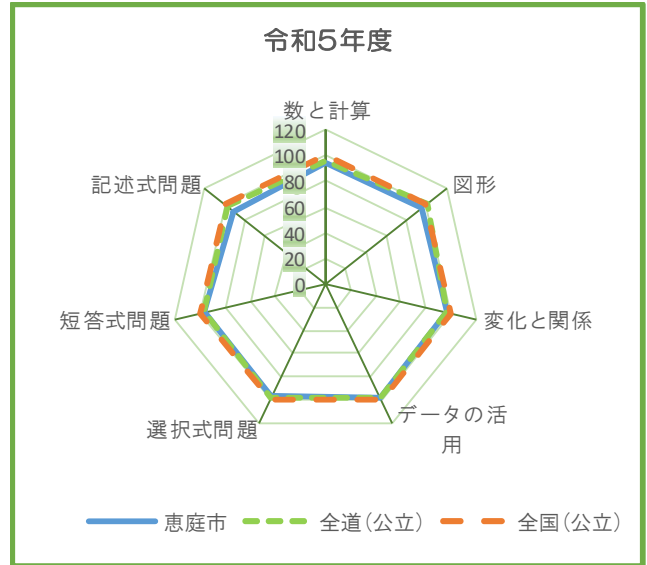
児童生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつもの丁寧さや工夫が求められるといえます。

② 小学校 算数

解答時間45分・設問数16問

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、「数と計算」「図形」は全国の平均正答率をやや下回り、その他の領域についてはほぼ同程度であった。また「図形」は全道の平均正答率をやや下回り、その他の分野についてはほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より1.8ポイント高かった。
- 正答率が全国より3ポイント以上下回った問題が7問あり、うち4問が「数と計算」の問題だった。また、「記述式問題」は4問中3問で全国の前答率を3ポイント以上下回るもしくは無解答率が10パーセントを上回っており、理由や方法を説明することに課題があると考えられる。

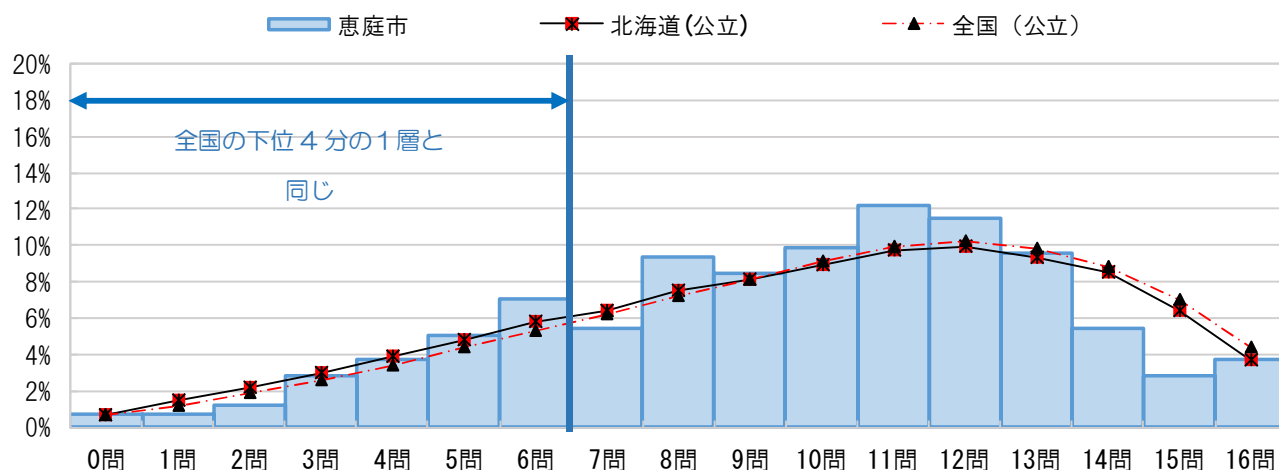


*小学校算数 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用	選択式問題	短文式問題	記述式問題
R5	恵庭市	○	・	○	○	●	○	・
	国と比較	◆	◆	≒	≒	≒	◆	◆
	全国(公立)	67.3%	48.2%	70.9%	65.5%	57.7%	74.7%	47.3%
	道と比較	≒	◆	≒	≒	≒	≒	◆
	全道(公立)	64.4%	48.7%	69.0%	63.9%	56.5%	72.7%	46.0%
R4 (前回) ※参考	前回実施	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	選択式問題	短文式問題	記述式問題
	国と比較	◆	◆	◆	▼	◆	◆	▼
	道と比較	◆	◆	≒	◆	◆	≒	◆

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R5	恵庭市	21.3%	1.8
	全国	19.5%	
	全道	21.9%	2.4

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	7問	数と計算	4 / 6問	選択式問題	2 / 5問
		図形	2 / 4問	短答式問題	3 / 7問
		変化と関係	1 / 4問	記述式問題	2 / 4問
		データの活用	0 / 3問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	1問	数と計算	0 / 6問	選択式問題	0 / 5問
		図形	0 / 4問	短答式問題	0 / 7問
		変化と関係	0 / 4問	記述式問題	1 / 4問
		データの活用	1 / 3問	※領域の重複する設問がある。	

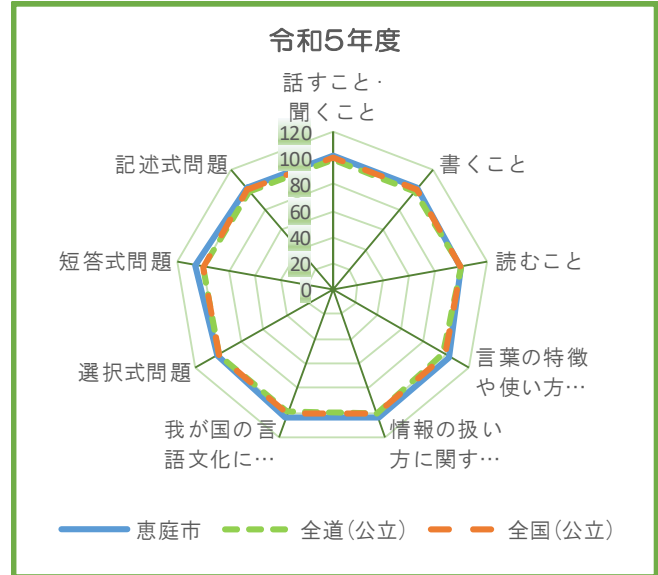
* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる	数と計算	短答	○	80.8%	◆	76.6%	≡
						無解答率とその比較	0.5%	1.2%	-0.7
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解している	図形	短答	▪	24.9%	◆	21.7%	≡
						無解答率とその比較	3.9%	3.7%	0.2
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる	図形	記述	▪	20.8%	▼	25.5%	▼
						無解答率とその比較	4.4%	4.0%	0.4
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる	数と計算	記述	▪	56.7%	▼	53.4%	◆
						無解答率とその比較	6.9%	5.5%	1.4
3 (3)	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる	数と計算	短答	○	72.4%	▼	69.1%	◆
						無解答率とその比較	2.1%	2.5%	-0.4
3 (4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	$(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる	数と計算	選択	▪	47.6%	▼	45.6%	◆
						無解答率とその比較	4.4%	3.9%	0.5
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解している	変化と関係	選択	▪	46.0%	▼	45.1%	◆
						無解答率とその比較	2.3%	2.4%	-0.1
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
3二	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる	データの活用	記述	●	56.2%	≡	54.3%	≡
						無解答率とその比較	16.1%	13.8%	2.3

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域の平均正答率は、全国・全道とほぼ同程度かやや上回った。また、問題形式別の平均正答率では、「短答式問題」が全国をやや上回っており、その他の分野においてはほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より4.1ポイント低かった。
- 無回答率が10%以上の設問は1問であり、「記述式問題」であった。全国の正答率を3ポイント以上上回った設問は2問あり、どちらも全国・全道を上回った。

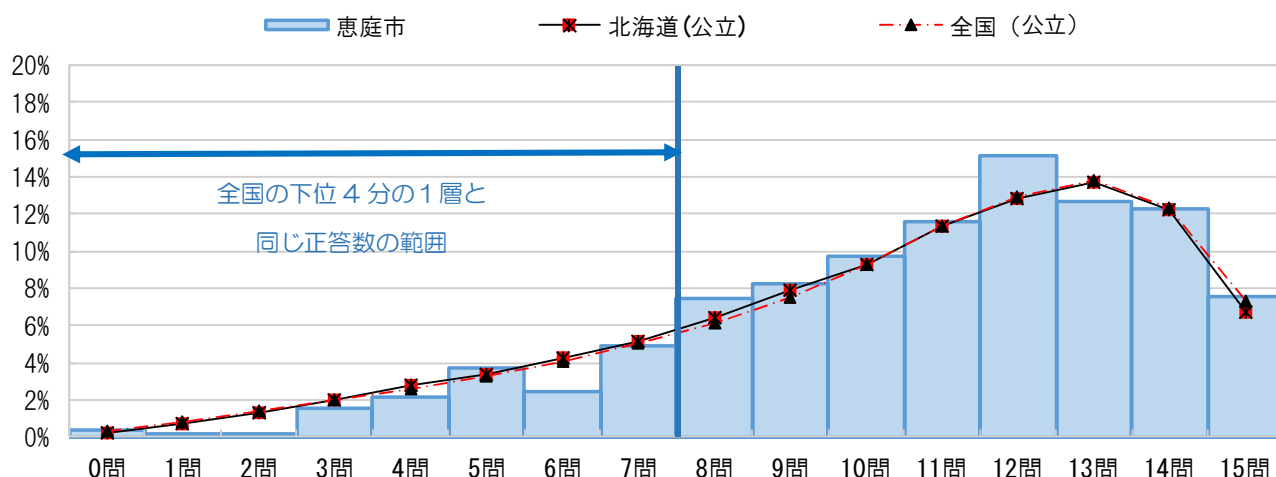


*中学校国語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率						問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R5	恵庭市	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	国と比較	≒	≒	≒	≒	◇	◇	≒	◇	≒
	全国(公立)	82.2%	63.2%	63.7%	67.5%	63.4%	74.7%	73.1%	65.6%	68.0%
	道と比較	≒	≒	≒	◇	◇	◇	≒	◇	◇
	全道(公立)	81.8%	62.1%	63.3%	66.4%	63.7%	74.5%	73.1%	65.3%	66.9%
R4 (前回) ※参考	前回実施	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	◆	≒	≒	◆	≒	≒	◇	≒
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R5	恵庭市	15.4%	-4.1
	全国	19.5%	/
	全道	19.8%	

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	1 / 7問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	1 / 4問
		読むこと	0 / 4問	記述式問題	0 / 4問
		言葉の特徴や使い方	0 / 2問	※領域の重複する設問がある。	
		情報の扱い方	1 / 2問		
		我が国の言語文化	1 / 3問		
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	なし				
無解答率が10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 7問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	0 / 4問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	1 / 4問
		言葉の特徴や使い方	0 / 2問	※領域の重複する設問がある。	
		情報の扱い方	0 / 2問		
		我が国の言語文化	0 / 3問		

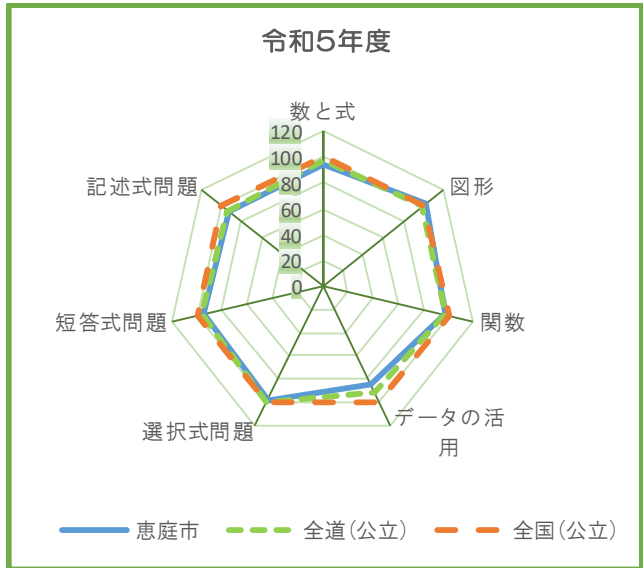
* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解している	情報の扱い方に関する事項	選択	○	65.1%	◇	65.0%	◇
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.1%
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる	我が国の言語文化に関する事項	短答	◎	82.5%	△	82.5%	△
					無解答率とその比較	0.9%	3.6%	-2.7	3.5%
★恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる	読むこと	記述	●	50.0%	◇	50.1%	◇
					無解答率とその比較	17.5%	20.7%	-3.2	22.7%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≍ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、「データの活用」で全道をやや下回っており、その他は全道とほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より3.9ポイント高かった。
- 「記述式問題」は5問中2問で正答率が全国より3ポイント以上下回っている。また、5問全てで無回答率が10%以上となっていることから、解答すること自体を諦めてしまう生徒の割合が高いことが読み取れる。

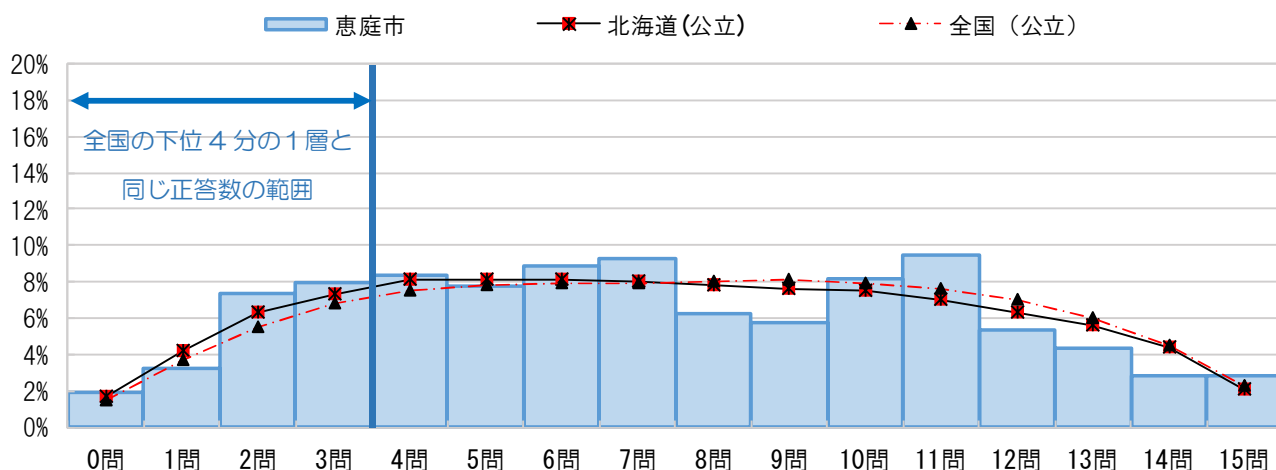


*中学校数学 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	データの活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R5	恵庭市	●	▪	●	▪	▪	●	▪
	国と比較	◆	≒	≒	▼	≒	◆	◆
	全国(公立)	63.0%	33.2%	51.2%	48.5%	45.3%	62.6%	41.6%
	道と比較	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒
	全道(公立)	61.7%	32.9%	49.7%	44.5%	45.3%	60.4%	39.1%
R4 (前回) ※参考	前回実施	数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	▼	≒	≒	◆	≒	▼	◆
	道と比較	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	▪49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R5	恵庭市	28.9%	3.9
	全国	25.0%	
	全道	27.6%	2.6

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	5問	数と式	2 / 5問	選択式問題	1 / 4問
		図形	0 / 3問	短答式問題	2 / 6問
		関数	1 / 4問	記述式問題	2 / 5問
		データの活用	2 / 3問		
無解答率が10%以上の設問	7問	数と式	2 / 5問	選択式問題	0 / 4問
		図形	2 / 3問	短答式問題	2 / 6問
		関数	1 / 4問	記述式問題	5 / 5問
		データの活用	2 / 3問		

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解している	関数	選択	■	42.8%	◆	41.7%	◆
					無解答率とその比較	0.4%	0.5%	-0.1	0.5%
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解している	データの活用	短答	■	46.1%	▼	39.4%	▼
					無解答率とその比較	11.2%	11.0%	0.2	13.0%
6 (2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	数と式	記述	●	58.8%	▼	53.3%	◆
					無解答率とその比較	10.6%	10.6%	0.0	13.3%
6 (3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる	数と式	記述	■	40.9%	▼	37.5%	≡
					無解答率とその比較	25.1%	24.7%	0.4	28.1%
7 (1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解している	データの活用	短答	●	65.7%	▼	62.5%	◆
					無解答率とその比較	3.7%	5.6%	-1.9	6.8%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
7 (2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	データの活用	記述	■	33.6%	≡	31.5%	≡
					無解答率とその比較	20.9%	22.8%	-1.9	25.0%
8 (3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	記述	■	42.8%	≡	42.2%	≡
					無解答率とその比較	12.3%	13.2%	-0.9	15.2%
9 (1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる	図形	記述	■	32.1%	≡	31.2%	≡
					無解答率とその比較	23.8%	24.7%	-0.9	26.7%

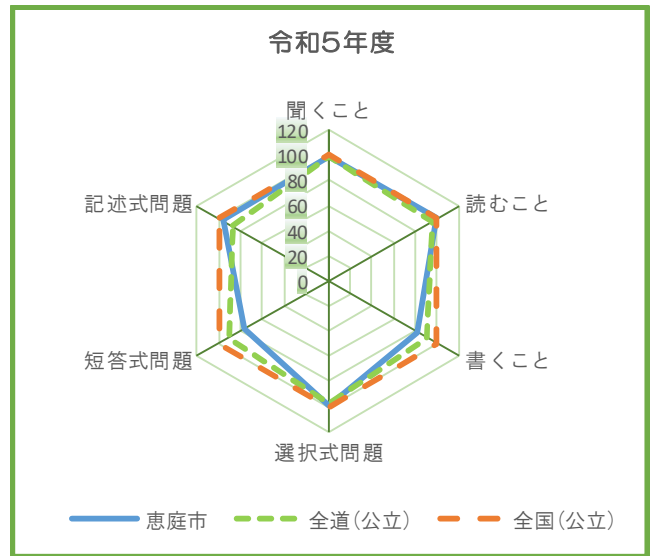
設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形 式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
9 (2)	二等辺三角形でない2 つの合同な三角形の ときに平行線がかけない ことについて、二等辺 三角形のときの証明の 中から成り立たなくな る式を書く	条件を変えた場合に 事柄が成り立たなくな った理由を、証明 を振り返って読み取 ることができる	図形	短 答	■	37.0%	◇	36.9%	◇
					無解答率とその比較	10.2%	14.2%	-4.0	15.1%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- ・領域別正答率では「書くこと」が全国をやや下回っており、その他の領域についてはほぼ同程度であった。
- ・問題形式別正答率は、「短答式問題」で全国を下回っており、全道をやや下回っている。その他の形式ではほぼ同程度であった。
- ・正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より2.2ポイント低かった。
- ・正答率が全国より3ポイント以上下回った問題が7問あり、特に「書くこと」については課題がみられる。
- ・「記述式問題」では2問中2問で無回答率が10%を上回っていた。

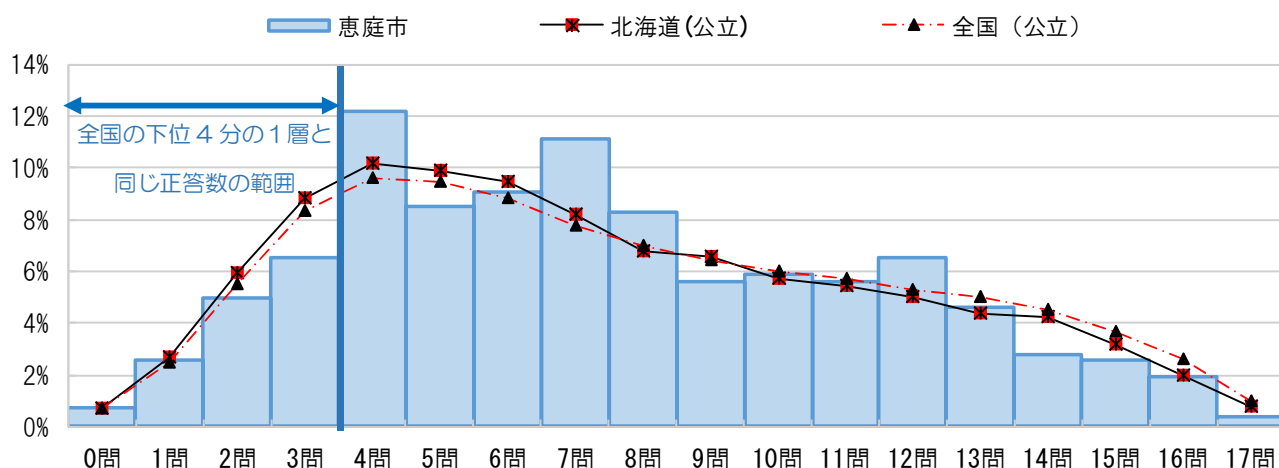


*中学校英語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率			問題形式別正答率		
		聞くこと	読むこと	書くこと	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R5	恵庭市	●	●	▪	●	▪	▪
	国と比較	≒	≒	◆	≒	▼	≒
	全国(公立)	58.4%	51.2%	23.4%	54.8%	30.1%	13.5%
	道と比較	≒	◇	◆	≒	◆	≒
	全道(公立)	58.1%	48.7%	21.1%	53.4%	27.4%	11.8%
H31 (R1) (前回) ※参考	前回実施	聞くこと	読むこと	書くこと	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	◇	≒	◇	◇	≒	≒
	道と比較	◇	≒	△	◇	△	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R5	恵庭市	14.8%	-2.2
	全国	17.0%	
	全道	18.1%	1.1

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全17問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	2問	聞くこと	1 / 6問	選択式問題	2 / 12問
		読むこと	1 / 6問	短答式問題	0 / 3問
		書くこと	0 / 5問	記述式問題	0 / 2問
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	7問	聞くこと	2 / 6問	選択式問題	4 / 12問
		読むこと	2 / 6問	短答式問題	3 / 3問
		書くこと	3 / 5問	記述式問題	0 / 2問
無解答率が10%以上の設問	3問	聞くこと	0 / 6問	選択式問題	0 / 12問
		読むこと	0 / 6問	短答式問題	1 / 3問
		書くこと	3 / 5問	記述式問題	2 / 2問

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる	聞くこと	選択	●	54.8%	◇	56.2%	≡
					無解答率とその比較	0.2%	0.4%	-0.2	0.4%
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができる	読むこと	選択	○	59.8%	△	58.2%	△
					無解答率とその比較	0.0%	0.3%	-0.3	0.3%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができる	聞くこと	選択	○	79.0%	◆	77.6%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.1%	0.1	0.1%
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができる	聞くこと	選択	▪	49.8%	▼	47.1%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.2%
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる	読むこと	選択	▪	35.9%	▼	32.6%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.3%	-0.3	0.2%
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができる	読むこと	選択	●	56.1%	▼	53.7%	◆
					無解答率とその比較	1.1%	0.8%	0.3	0.8%
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができる	書くこと	短答	▪	40.4%	▼	37.1%	◆
					無解答率とその比較	4.8%	6.6%	-1.8	7.7%
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる	書くこと	短答	▪	20.9%	▼	15.6%	≡
					無解答率とその比較	9.8%	10.9%	-1.1	13.0%
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができる	書くこと	短答	▪	29.0%	▼	29.3%	▼
					無解答率とその比較	24.3%	24.5%	-0.2	26.8%

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形 式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる	書くこと	記述	■	19.5%	≡	17.2%	≡
						無解答率とその比較	32.1%	29.3%	2.8
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる	書くこと	記述	■	7.4%	≡	6.3%	≡
						無解答率とその比較	26.0%	21.4%	4.6

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

(1) 小・中学校児童生徒質問紙調査結果の概要

ア. 生活習慣

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ア. 生活習慣に関する質問								
1	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	92.9%	92.1%	0.8	93.9%	-1.0
			中3	88.7%	88.8%	-0.1	91.2%	-2.5
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	82.6%	81.0%	1.6	81.0%	1.6
			中3	75.5%	77.3%	-1.8	78.0%	-2.5
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	93.0%	90.2%	2.8	90.5%	2.5
			中3	90.1%	91.2%	-1.1	91.3%	-1.2

【規則正しい生活】朝食の習慣について、「朝食を毎日食べている」と答えた割合は、小学校では9割を超えているが、中学校では昨年度より2ポイント程度低い。小・中学校ともに全国より若干低い。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合は、小学校では全道・全国より1ポイント程度高い。中学校では全道・全国より2ポイント程度低い。昨年度の結果と比較するとやや改善の傾向がある。「毎日、同じくらいの時刻に起きています」と答えた割合は、小学校では全道・全国より2ポイント以上高いが、中学校では若干低い。

規則正しい生活を送る子どもの割合は改善傾向にあるが、特に中学校では全国・全道よりポイントが低いことから、家庭や学校において生活リズムを整えるよう、更に指導していく必要がある。

【家庭でのルール・ゲーム・SNS等】今回調査ではテレビ・ゲーム・スマホに関する設問がなかったが、例年の回答傾向や前述の就寝・起床に関する分析をふまえて、夜更かして生活リズムを崩したり、家庭でのだらんや学習の時間を損ねないように、家庭・学校双方から「節度ある利用」を指導していくことが、引き続き重要となる。北海道教育委員会では、学習以外でメディアに触れる時間を1日2時間以内とする目安を公表しているため、指導の参考としたい。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」
https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/jikan_meyasu_h29/3.html
 ※記載したウェブサイトのアドレスは、令和6年1月現在のものです。

イ. 自分やまわりへの意識

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
イ. 自分やまわりへの意識に関する質問								
4	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	81.0%	81.1%	-0.1	83.5%	-2.5
			中3	81.5%	79.6%	1.9	80.0%	1.5
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	89.7%	88.6%	1.1	89.8%	-0.1
			中3	90.9%	86.8%	4.1	87.3%	3.6
7	将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	82.4%	80.4%	2.0	81.5%	0.9
			中3	59.2%	65.8%	-6.6	66.3%	-7.1
8	人が困っているときは、進んで助けていますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	91.6%	91.4%	0.2	91.6%	0.0
			中3	85.5%	87.1%	-1.6	88.1%	-2.6
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	97.3%	97.1%	0.2	96.9%	0.4
			中3	96.2%	95.5%	0.7	95.5%	0.7
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	95.9%	95.8%	0.1	95.9%	0.0
			中3	93.9%	93.7%	0.2	95.0%	-1.1
14	友達関係に満足していますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	82.8%	88.7%	-5.9	90.3%	-7.5
			中3	89.1%	88.0%	1.1	88.7%	0.4

【自己肯定感】「自分にはよいところがある」と答えた割合は、小学校では全道・全国より若干低いが、中学校では若干高い。自分の良いところを見つける意識が少しずつ芽生えていることから、学校でも引き続き働きかけていきたい。「先生がよいところを認めてくれる」と答えた割合は、小学校で全道・全国と同程度、中学校で3ポイントから4ポイント程度高い。他者から褒められる、認められることは、自己肯定や意欲向上へ繋がるため、小学校では子どもの行動や気持ちへの理解に基づく声掛けが一層求められる。

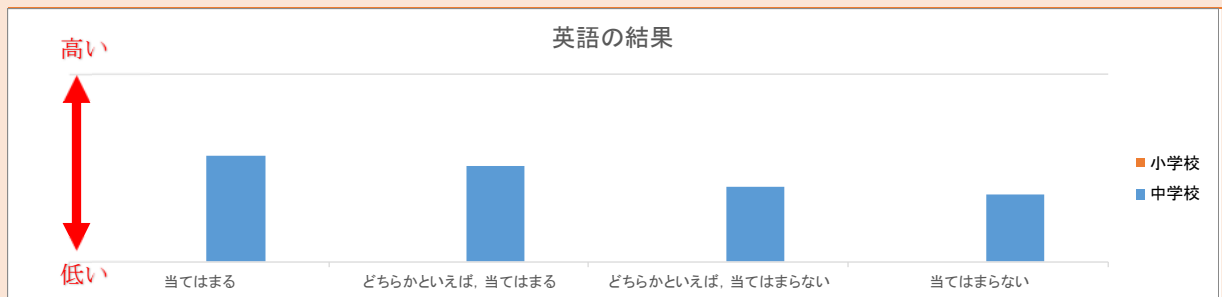
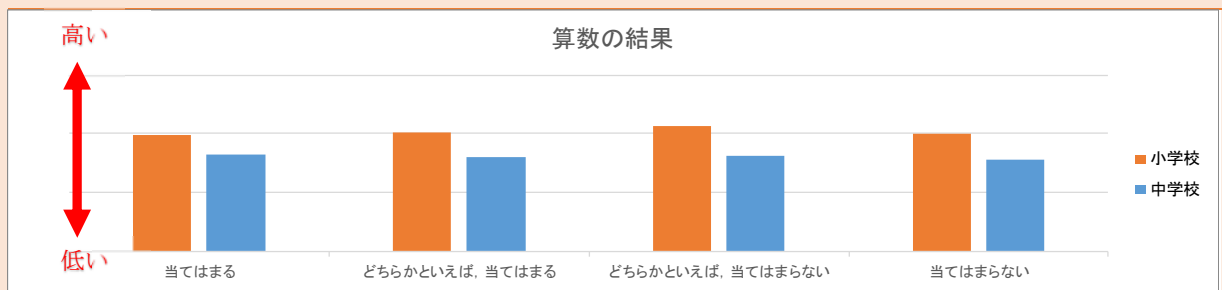
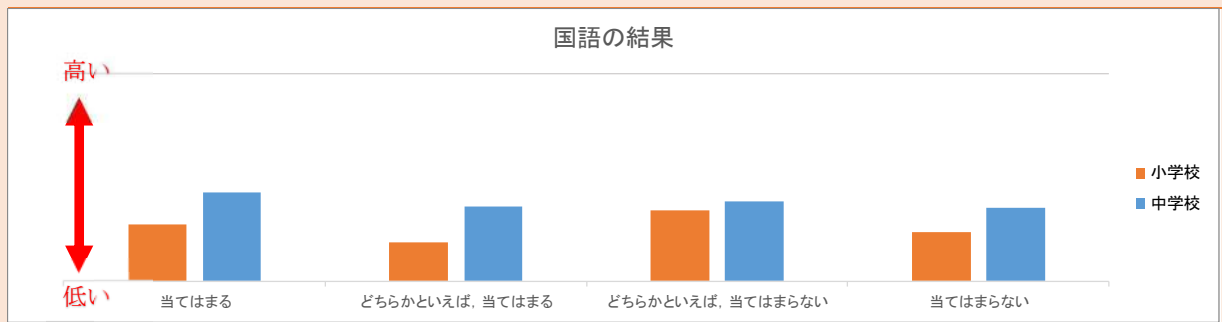
【挑戦心】「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、中学校で昨年度より7ポイント程度低く、2年連続で減少している。将来の夢や目標を持ち、チャレンジする気持ちは学校生活だけでなく、将来にわたり重要であることから、「キャリア・パスポート」等も活用したキャリア教育で、夢や目標の設定、そこに向かって努力することの大切さを引き続き指導していく必要がある。

※「キャリア・パスポート」とは・・・児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動において、学級活動及びホームルーム活動を中心として、自らの学習状況やキャリア形成について見通したり振り返ったりすることで、自身の変容や成長を自己評価し、目標を設定できるよう工夫されたポートフォリオ（書類ケースという意味）。

【親切心・友人関係】「いじめはいけない」と答えた割合は、全道・全国とほぼ同程度になっている。「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合は、全道・全国との比較で若干の差はあるものの、9割を超えており、他者への貢献や思いやり、自己有用感を大切に思っている児童生徒が多い。また、「友達関係に満足している」と答えた割合は、小・中学校ともに8割を超えており、小学校では全国より7ポイント程度低いが、中学校では全道・全国と同程度となっている。

質問番号7のクロス集計

「将来の夢や目標を持っていますか」



【平均正答率との相関関係】「将来の夢や目標を持っている」という挑戦心に関する質問では、児童の回答と平均正答率の相関関係には目立った特徴は見られないが、中学校においては「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

将来の夢や目標は、子どもたちの学習に取り組む意欲や日頃の学習に対する姿勢に繋がる重要な要素であり、学校においてはキャリア教育等を通して培うものである。

学校で学んでいることが、自分の将来にどう役立つのかを具体的にイメージすることが、新たな発見やより深い学習に結びついていくため、活躍する場面がイメージしやすい英語では、挑戦心に関する質問と相関性をはっきり表れているとも考えられる。

ウ. 家庭学習・読書習慣

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ウ. 家庭学習に関する質問								
16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	「よくしている」「ときどきしている」	小6	72.7%	74.5%	-1.8	70.7%	2.0
			中3	54.3%	54.6%	-0.3	55.0%	-0.7
17	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1時間以上している	小6	47.9%	52.4%	-4.5	57.1%	-9.2
			中3	61.1%	59.0%	2.1	65.8%	-4.7
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1時間以上している	小6	46.1%	51.2%	-5.1	52.5%	-6.4
			中3	57.3%	61.5%	-4.2	65.3%	-8.0
20	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	30分以上している	小6	38.5%	34.8%	3.7	37.3%	1.2
			中3	26.4%	28.6%	-2.2	28.4%	-2.0
		全くしない	小6	24.2%	26.4%	-2.2	24.5%	-0.3
			中3	37.5%	36.3%	1.2	36.8%	0.7
24	読書は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	73.4%	71.4%	2.0	71.8%	1.6
			中3	69.1%	68.5%	0.6	66.0%	3.1

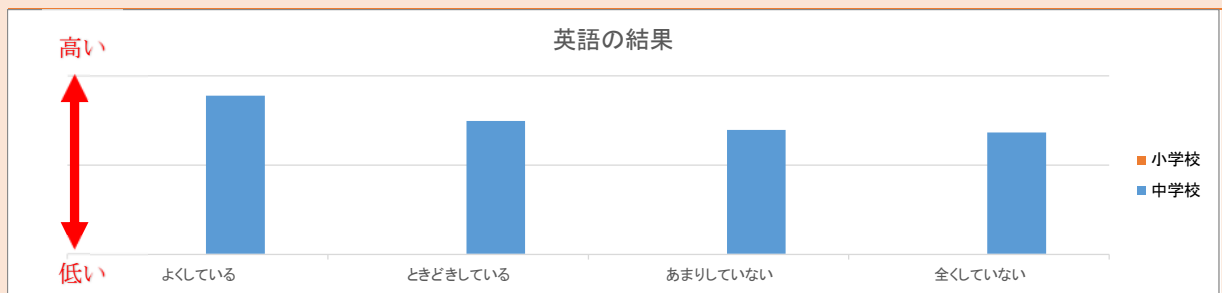
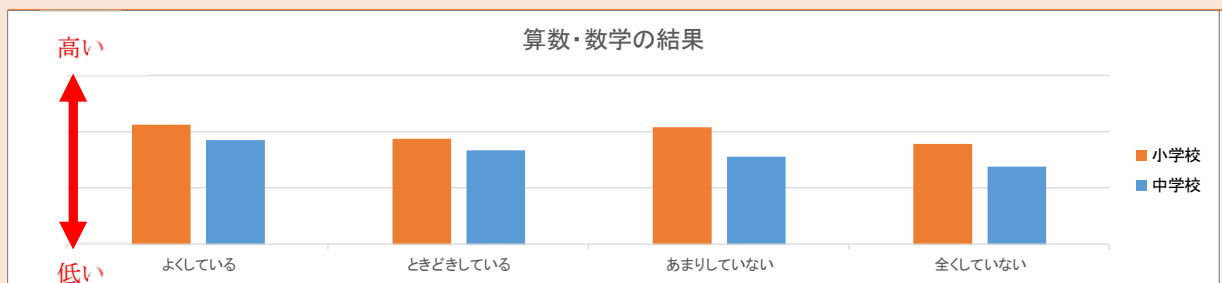
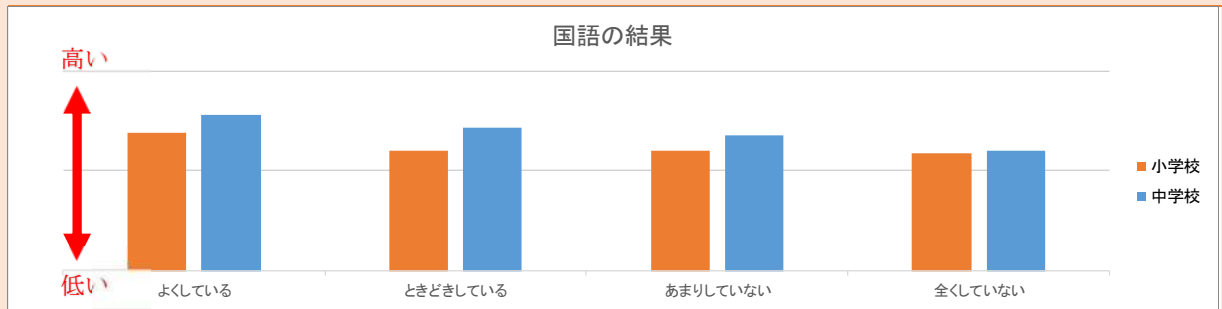
【家庭学習の内容】「自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は、全国と比較すると小学校で2ポイント高いが、中学校では全道・全国より若干低い。昨年度と比べると、小学校は6ポイント程度低くなっており、中学校は微減ではあるが2年連続でポイントを落としている。計画的な家庭学習について、学校と家庭が連携して取り組む必要がある。

【家庭学習の時間】市教委では、家庭学習の時間の目安を小1から数えた学年×10分+10分としており、小学校6年生では70分、中学校3年生では100分になる。「平日に1時間以上学校以外で勉強している」と答えた割合は、中学校は昨年度と大きく変わらないが、小学校では10ポイント以上低い。また、「休日に1時間以上勉強している」と答えた割合は、小学校で昨年度より16ポイント程度低くなっており、全道・全国平均を大幅に下回っている。昨年度の調査で「普段、1日あたり2時間以上SNS・動画視聴をする」と回答した割合が小・中学校ともに全国より割合が高かったことから、家庭学習に取り組む時間の優先順位が下がっていると考えられる。自ら学んでいく前向きな姿勢が身に付くよう、指導方法等の検討が求められる。

【読書習慣】「読書が好き」と答えた割合が、小・中学校ともに全道・全国よりやや高いものの、昨年度より小学校では3ポイント程度、中学校では5ポイント以上低くなっている。また、「読書を全くしない」と答えた割合について、昨年度は中学校で4割近くあったが、2ポイント程度低くなっている。SNSや動画視聴、ゲーム等に費やす時間が増えた分、読書や家庭学習に割く時間が減少していると推測されるため、時間の使い方について改善が求められる。市内小・中学校では、市立図書館との連携による学校図書館の蔵書の充実を図り、保護者やボランティアの協力による読み聞かせや、朝読書等の活動を実施しているが、家庭での読書時間は年々減少している結果となっている。恵庭市は「読書のまちづくり」を掲げ、「恵庭市人とまちを育む読書条例」を平成25年度から施行し、本と触れ合うための様々な施策を実施していることから、引き続き読書習慣の向上を図っていきたい。

質問番号 20 のクロス集計

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」



【平均正答率との相関関係】家庭学習で計画を立てて勉強することと、平均正答率には相関関係があることがうかがえる。特に、算数や数学に関しては、特に解き方や「どうしてこの答えになるのか」といった問題解決力を伸ばすことが学力向上につながるため、勉強時間の設定だけでなく、不得意な部分の克服等、自分に合った目標をもって取り組むことが重要である。限られた時間で学んだことを吸収するためにも、計画を立てて学習に取り組めるよう、学校でも学習方法等を指導しながら、家庭からの働きかけを促していきたい。

エ. 地域や社会

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
エ. 地域や外国の人との関わりに関する質問								
25	今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	56.0%	52.6%	3.4	57.8%	-1.8
29			中3	38.4%	32.7%	5.7	38.0%	0.4
26	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	77.5%	76.6%	0.9	76.8%	0.7
30			中3	65.5%	60.0%	5.5	63.9%	1.6
27	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	73.5%	70.3%	3.2	72.5%	1.0
31			中3	64.0%	62.8%	1.2	66.8%	-2.8
28	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	79.0%	78.2%	0.8	78.1%	0.9
32			中3	64.6%	60.3%	4.3	63.2%	1.4

【地域との関わり】「地域の行事に参加している」と答えた割合は、小・中学校ともに全道より高く、中学校では6ポイント近く上回っている。新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた地域の活動が徐々に再開していることが伺える。

【ふるさと教育】「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国を上回っており、中学校では全道を5ポイント以上上回っている。恵庭市では、小学校3・4年生で恵庭の歴史や産業、くらし等を学ぶための社会科副読本を独自に編纂し、活用している他、各校で地域資源を活用した「ふるさと教育」を推進しているため、今後も継続していきたい。

【外国の人との関わり】「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と答えた割合は、小学校では全道・全国を上回り、中学校も全道を上回っている。また、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国を上回っており、中学校では全道を4ポイント以上上回っている。恵庭市で暮らす外国人の人口は年々増加しており、令和5年10月には人口に対する外国人の割合が1%を超えた。市内の13小中学校のうち、7校に外国籍の児童生徒が在籍しており、外国の人との関わりが身近になっている。



オ. 教科（国語・算数/数学・英語）について

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
オ. 教科（国語・算数/数学・英語）に関する質問								
43	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	59.5%	62.1%	-2.6	61.5%	-2.0
47			中3	72.7%	63.2%	9.5	61.4%	11.3
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	84.9%	86.0%	-1.1	85.7%	-0.8
49			中3	89.1%	81.4%	7.7	80.0%	9.1
51	算数/数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	59.3%	58.5%	0.8	61.4%	-2.1
55			中3	52.6%	54.3%	-1.7	56.7%	-4.1
53	算数/数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	81.1%	79.2%	1.9	81.2%	-0.1
57			中3	69.5%	71.3%	-1.8	73.3%	-3.8
55	英語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	74.8%	70.6%	4.2	69.3%	5.5
59			中3	50.7%	49.6%	1.1	51.9%	-1.2
61	英語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	-	-	-	-	-
			中3	62.5%	60.8%	1.7	63.9%	-1.4

【国語】「国語の勉強が好き」と答えた割合は、小学校で全道・全国より2ポイント程度低い。中学校では全道・全国より9から11ポイント以上高い。また、「国語の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は、中学校で全道・全国より7から9ポイント以上高く、前回調査から継続して国語が好きで授業を理解している割合が高い。逆に小学校では全道・全国より若干低く、国語への苦手意識が学力調査の結果にも表れている。

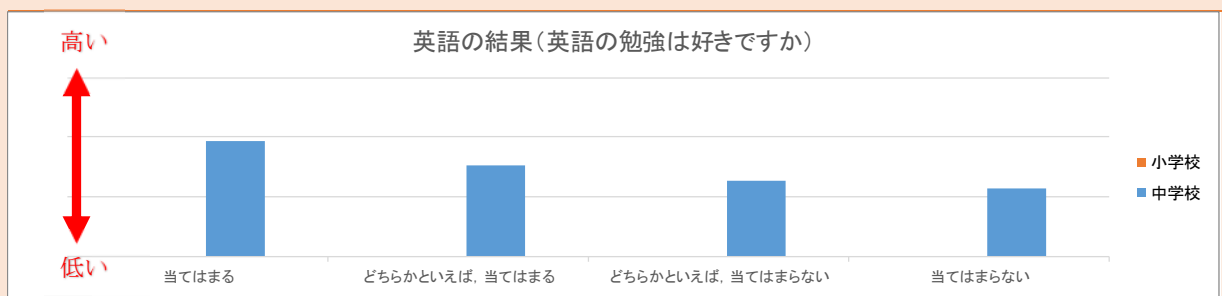
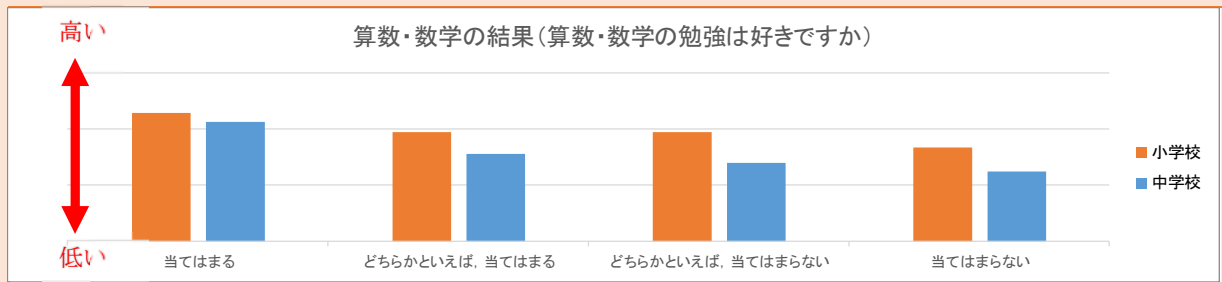
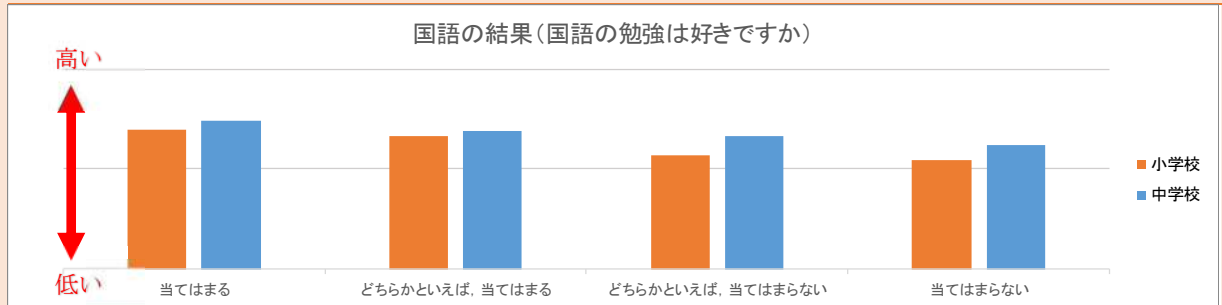
【算数/数学】「算数/数学の勉強が好き」と答えた割合は全国と比べ、小学校で2ポイント、中学校で4ポイント程度低い。また「算数/数学の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は、小学校では全道より2ポイント近く高い。中学校では全国より4ポイント程度低いが、前年度と比べると数学が好きで授業を理解している割合は改善している。算数や数学は、積み重ねが重要であり、きちんと理解しないまま進むと、つまづく傾向にある。そのため、学校の授業はもちろん、復習等の家庭学習も重要になるが、ゲーム等で時間を使う傾向が強くなってくると、勉強する時間が削られることになってしまう。学校でも、子どもの理解度に応じた授業や指導を進める必要があるが、家庭でも必要な勉強時間を確保しながら、算数や数学への苦手意識を克服していくことが大切である。

【英語】「英語の勉強が好き」と答えた割合は小学校で全道・全国より高く、中学校でも全道より高い。特に小学校では全国と比較して5ポイント以上高い割合が「英語の勉強が好き」と回答している。また、中学校で「英語の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は全道・全国とほぼ同程度である。

【全体】教科ごとの好き嫌いや理解度が、はっきりした結果となっており、学力調査の結果とも共通する傾向にある。特に、算数や数学は前年度の傾向と同様に苦手としている児童・生徒が多く、今後の取組が重要である。今回の英語のように、興味や関心が学ぶ意欲や結果へつながるため、学校は引き続き学ぶ楽しさを感じられるような、「主体的、対話的で深い学び」の実現に努め、家庭と連携しながら家庭学習の充実に向けた取組を進めていく必要がある。

質問番号43（47）、51（55）、55（59）のクロス集計

「国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか」※質問の教科に対応した教科の結果を掲載



【平均正答率との相関関係】教科の好き嫌いが、平均正答率と概ね相関関係にあることがうかがえる。特に、中学校の数学・英語においては顕著となっており、「当てはまる」と「当てはまらない」の間には1.5倍以上の差が生じる結果となった。教科が「好き」だから学力が伸びることは当然だが、「理解できる」「解くことができる」から「好き」になるとも考えられる。学校と家庭で連携して、学ぶことの楽しさにつながる取組を引き続き進めながら、「主体的、対話的で深い学び」の実現に努めていきたい。

(2) 学校質問紙調査の主な回答結果データ

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
A. 児童・生徒への指導に関する質問								
11	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	「よく行った」	小	37.5%	31.9%	5.6	20.4%	17.1
			中	20.0%	56.4%	-36.4	49.5%	-29.5
12	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	「よく行った」	小	87.5%	61.1%	26.4	49.4%	38.1
			中	0.0%	52.4%	-52.4	44.6%	-44.6
13	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童/生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	「よく行った」	小	100.0%	66.7%	33.3	60.8%	39.2
			中	40.0%	58.7%	-18.7	54.8%	-14.8
B. 学校運営に関する質問								
14	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	「よく取り組んでいる」	小	50.0%	53.2%	-3.2	55.8%	-5.8
			中	40.0%	42.9%	-2.9	43.5%	-3.5
16	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか	「十分に取り入れている」	小	62.5%	44.1%	18.4	28.9%	33.6
			中	40.0%	40.2%	-0.2	26.9%	13.1
23	児童/生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	「よくしている」	小	75.0%	41.6%	33.4	33.3%	41.7
			中	60.0%	36.7%	23.3	27.3%	32.7
C. 授業改善に関する質問								
26	調査対象学年の児童/生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小	100.0%	92.7%	7.3	88.9%	11.1
			中	100.0%	91.6%	8.4	88.0%	12.0
33	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、授業において、児童/生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	94.1%	5.9	90.4%	9.6
			中	100.0%	91.6%	8.4	87.0%	13.0
34	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	95.4%	4.6	89.0%	11.0
			中	100.0%	92.4%	7.6	87.7%	12.3
D. 教科の指導方法に関する質問								
40	調査対象学年の児童/生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童/生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	「よくしている」	小	87.5%	53.1%	34.4	36.2%	51.3
			中	60.0%	59.9%	0.1	42.8%	17.2
45	調査対象学年の児童に対して、国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.6%	1.4	96.8%	3.2
			中	100.0%	99.0%	1.0	98.5%	1.5
48	調査対象学年の児童/生徒に対する算数/数学の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童/生徒がそのわけ(根拠)を理解できるように工夫していましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.1%	1.9	97.9%	2.1
			中	100.0%	97.7%	2.3	97.6%	2.4
50	英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等)をどの程度設けていますか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	0.0%	7.4%	-7.4	14.0%	-14.0
51	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	中	40.0%	79.1%	-39.1	76.8%	-36.8

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
E. ICTを活用した学習に関する質問								
53	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	「ある」「どちらかといえば、ある」	小	100.0%	96.2%	3.8	95.9%	4.1
61			中	100.0%	91.9%	8.1	91.5%	8.5
55	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	「ほぼ毎日」「週3回以上」	小	100.0%	95.2%	4.8	90.6%	9.4
63			中	100.0%	90.3%	9.7	86.7%	13.3
57	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	「ほぼ毎日」「週3回以上」	小	50.0%	56.8%	-6.8	45.8%	4.2
65			中	40.0%	52.7%	-12.7	44.2%	-4.2
F. 小学校と中学校の連携に関する質問								
67	前年度までに、近隣等の中学校/小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	78.9%	8.6	60.6%	26.9
75			中	80.0%	82.9%	-2.9	66.8%	13.2
68	前年度までに、近隣等の中学校/小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	69.5%	5.5	58.2%	16.8
76			中	100.0%	78.9%	21.1	67.3%	32.7
G. 家庭や地域との連携に関する質問								
71	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	100.0%	94.9%	5.1	86.7%	13.3
79			中	100.0%	91.4%	8.6	83.2%	16.8
72	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	100.0%	93.9%	6.1	95.9%	4.1
80			中	100.0%	70.7%	29.3	82.1%	17.9
74	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	84.4%	3.1	86.1%	1.4
82			中	100.0%	81.8%	18.2	79.3%	20.7
H. 家庭学習に関する質問								
75	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	96.5%	3.5	90.8%	9.2
83			中	100.0%	87.4%	12.6	84.6%	15.4
76	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.2%	1.8	95.7%	4.3
84			中	100.0%	91.7%	8.3	90.9%	9.1
77	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、学校では、児童/生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	94.2%	5.8	90.6%	9.4
85			中	100.0%	87.3%	12.7	84.4%	15.6



4 総評

① テスト結果について

全国学力・学習状況調査の結果から、恵庭市の児童（小学校6年生）の平均正答率は、全国平均に比べて、国語が「ほぼ同程度」、算数が「やや下回る」という結果となりました。生徒（中学校3年生）の平均正答率は、全国平均に比べて、国語が「ほぼ同程度」、数学が「やや下回る」、英語が「ほぼ同程度」という結果となりました。

また、全国の下位約25%の児童生徒と同じ正答率の範囲に含まれる恵庭市の児童生徒の割合は、前回（令和4年度）と比べて、次のようになりました。学力に課題のある層の割合は全体的に減少していますが、中学校3年生の数学においては増加していることが分かります。

全国の下位 25%の範囲 に含まれる恵 庭市の割合	小学校6年生			中学校3年生		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
(前回) R4	23.9%	29.5%	23.8%	21.0%	24.1%	17.7%
R5	21.4%	21.3%		15.4%	28.9%	14.8%

※割合が小さくなることが、学力の底上げの目安になります。

② 質問紙の結果について

今回の児童生徒質問紙では、家庭学習の取組時間に関する設問において、「1時間以上」勉強している割合が、小学校、中学校ともに全国平均を下回り、令和4年度と比較すると、特に小学校で勉強時間が減少していることが伺えます。

昨年度に続き、「ゲーム・スマホ」に費やす時間が増えていることも考えられるため、時間の使い方を家庭でも話し合い、計画的な学習を心掛けることが必要です。

また、令和5年5月には新型コロナウイルス感染症が、「5類感染症」に移行し、これまでであった制限が緩和され、学校でも様々な取組が以前のように実施できるようになってきました。コロナ禍で危惧されていた「自尊感情」「自己肯定感」の低下も、令和4年度から続いて改善傾向にあります。

一方で、将来の夢や目標を持っている子の割合が、中学校で令和4年度よりも減少し、全道、全国の平均を下回っています。子どもたちが夢や目標を持ち、意欲的に学習に取り組める環境を構築できるよう、学校と家庭、地域が連携、協力して「学びの保障」に取り組んでいきます。

学校質問紙については、各校に足りない点や更に伸ばしていく点を振り返る機会として、今後の学力向上を含めた取り組みに活かしていきます。特に、ICTを活用した授業や教育活動の取り組みに関しては、学校間での情報共有を図りながら、児童生徒だけでなく、教員の負担にも配慮しながら、丁寧に進めていきたいと考えています。

③ 恵庭市の学力向上に向けた取組について

基礎学力の向上を図るため、市内各校では、全国学力調査やNRT（標準学力検査）の分析結果に基づいた「学校改善プラン」を作成し、習熟度別授業やTT（チームティーチング）等を取り入れながら、きめ細かい指導に努めてきました。恵庭市教育委員会では、分かりやすい授業作りのため、平成26年3月に市内13校の全教室に実物投影機を配置、令和元年7月までに市内13校全校に電子黒板を配置しています。

また、令和4年度までに「GIGAスクール構想」に基づくタブレットパソコンを、全校の児童生徒に整備したとともに、指導にあたる教職員のために研修会等を実施するなど、これまで整備してきたICT機器の指導力・活用力の向上に努めています。

平成29年度から「恵庭市小中連携教育推進委員会」を立ち上げ、年間3回の合同会議を開催して、義務教育の9年間を見通した「小中一貫教育」の推進に努めています。同委員会は、4プロジェクト（1.恵庭中・恵明中学校区、2.恵北中学校区、3.柏陽中学校区、4.恵み野中学校区）に分かれ、各プロジェクトには6委員会（①高学年・中1、②生徒指導、③学力向上、④体力向上、⑤児童会・生徒会交流、⑥特別支援）を設置して、小学校と中学校がお互いに情報交換及び交流を通して、円滑な接続につながるよう、小中学校の連携教育を推進しています。

恵庭市学力向上アドバイザーより

一人一人の児童生徒が自分専用のタブレット端末を使用して学習を進めるようになってから1年以上が経ちました。この間の児童生徒の活用力の進歩には目覚ましいものがあり、課題に応じた使い方や思考を深める使い方など、「主体的・対話的で深い学び」に確かな手ごたえを感じます。また、学校では、感染症等による学級閉鎖や不登校の児童生徒等に授業の様子をオンラインで配信したり質問等のやり取りをしたりするといった「学習の保障」にも力を入れてきました。全ての児童生徒に身に付けさせたい力を、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3本の柱で整理し、「生きる力」を育むための授業づくりに力を入れています。

全国学力・学習状況調査では、全国・全道の正答率を上回る教科がある一方、課題が見られる教科や内容もあります。学校は各種検査やアンケート等の結果について緻密な分析を行い、指導上の課題を校内で共有し、組織的に取り組んでいます。また、子どもたちが自分の課題とする学習内容を自分に合った方法で計画的に取り組むためには、家庭からの働きかけや地域の協力が不可欠です。恵庭市教育委員会では、引き続き教育環境の整備や学習指導への支援など力を尽くしてまいります。今後も学校と家庭、地域が一体となって学校教育を進めていくことが子どもたちの「生きる力」の育成につながると考えています。

